

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	61	学 校 名	静岡県立小笠高等学校	校 長 名	新林 章輝
------	----	-------	------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的な生活習慣の確立と社会性の育成	- 挨拶、時間、服装の習慣化とマナー向上を心掛けた生徒 90%以上 - 不注意遅刻の生徒 月 10 人以下 - 提出物を期限内に提出する生徒 90%以上	- 挨拶、時間、服装におけるマナー向上のアンケート肯定回答 99.4%。不注意遅刻は年間を通して 15 名。提出物を期限内に提出できている生徒のアンケート肯定回答 97.2%。 - 不注意遅刻をしなかった生徒の肯定率 95.7%。 - 生徒の提出物を期限内に提出した肯定率 97.2%	A	- 生活習慣のマナーについては、十分に達成できており、今後も継続していければと考えている。 - 不注意による遅刻をしないように生徒が心掛け実践した。 - 提出物を期限内に提出したと回答する生徒が 90%を超えた。一方で提出できない生徒については丁寧な指導が必要である。
		- 交通事故・違反数 年間 10 件以内 - 自転車の未施錠点検を週 1 回行っている。	交通事故は年間 2 件、違反は 20 件（11 月末現在）、自転車の未施錠点検は毎日実施。	B	交通事故、違反ともに減少傾向にあるが、目標達成には至らない。継続して交通マナーへの呼びかけをしていきたい。
イ	安全で安心できる学校生活の確保	危機管理マニュアルに則した実践的な危機管理を行うとともに、地域防災訓練への参加を促進する。	避難訓練・防災訓練の計画的実施ができた。防災倉庫の点検、整理を行った。実施された地区の地域防災訓練への参加率は 85%となり、目標概ね達成できた。また、全校生徒に対し、アンケート等を実施し、防災意識を高めることができた。	A	防災設備、器具の充実を図りたい。地域防災訓練を実施しない地区や地区ごとに日程が異なるため、調整や対策の検討が必要である。また、情報機器を活用し、生徒への情報提供を行うと同時に、防災意識を向上させる手立てを考えたい。
		資料や研修報告の共有及び啓蒙活動により、人権尊重の精神に基づいた教育活動を行う。	学校評価に関わる教職員アンケートにおいて「人権教育資料や研修報告の共有および啓蒙活動により、人権尊重の精神に基づいた教育活動を行っ	A	学校評価に関わるアンケートにおいて「学校は、人権意識の視点に立った教育を適切に行っていた。」と回答した生徒は 95.2%、保護者は

様式第3号

			た。」と回答した教職員は89.8%であり、概ね達成できた。		91.5%であった。 来年度は100%を目指して教職員一人一人が意識して取り組む。
		生徒相談室・養護教諭・担任・年次・カウンセラー等が連携し、問題や悩みをもつ生徒のケアを行う。	- アンケートは予定通り2回実施。迅速かつ適切に対応した。 - 悩みを抱えている生徒に対しては会議を開き、担任や年次主任等と連携し支援を行った。 1年次個別案件でも実施できた。迅速に対応できたことで、生徒の状態改善をはかることができた。 教員 96.0% - 必要なケース会議を迅速に実施した。 - 教育相談連絡会の実施や日常また年次会議等を通じた教員間の情報交換を充実させられた。	A	- 悩みを抱える生徒にとってカウンセラーの存在は大変大きく、彼らの拠りどころとなっている。 - 生徒の悩みは多様化しており、対応のスキルを学ぶ必要性を感じている。 - 職員間の連携を高めるため、情報を共有する方法を検討する。 - 定期的実施はもちろんのこと、適宜状況に合わせて実施することでより迅速な対応や未然に防止する策を講じられる。 - 面談等を通して問題の早期発見ができた。担任、主任、関係分掌と連携して対応できた。 - 養護教諭や担任によるケアが行われ、昨年に比べ大きく発展する人間関係の問題は発生しなかった。継続実施。
		清潔な生活環境を保ち、校内美化とごみの削減を推進する。	生徒の意識は高く、目標達成できた。(97.1%)	A	- 倉庫内の清掃用具の整理整頓をし、不要な棚や箱を撤去した。 - 石鹸の補充や水質検査を欠かさず行た。 - 文化祭後の展示物や各部活から出るごみの片付けの効率化が課題である。 - 放課後の校内巡視など、美化・保健委員の貢献が大きい。
ウ	基礎学力の定着と主体	アクティブな授業と適切な学習課題を通じて、基礎学力・技能を習	95.9%の教員がアクティブな授業などを通		教員のアクティブな授業などへの取り組

様式第3号

	的な学びの実現	得させるとともに、思考力・判断力・表現力等を向上させる。 「高校生のための学びの基礎診断」を有効に活用する。	じて、生徒の能力を向上させたと回答。 ・第1回は報告会で現状の共通理解を図り、第2回ではまとめ資料を作成し個人面談に活かした。(教員 67.4%)	A	みが、生徒の主体的に授業に取り組んだという回答 97.7%につながった。 ・進学クラスでは活用が図られた。LHR 等で生徒に読み込ませ、課題と目標を作るような機会を作りたい。
		・生徒による授業評価を年間2回実施し、結果に基づいた授業改善を行う。	・生徒による授業評価を7月、12月の2回実施した。	A	・教員の87.8%がアンケート結果を授業改善につなげた。
		・読書記録をつけることにより読書活動を推進し、朝読書を充実させる。	・朝読書の実施により、落ち着いて学校生活をスタートすることができた生徒の割合は88.3%であり、わずかに目標を下回った。読書記録の習慣化はできなかったが、各HRの要望に応じたHR文庫を全クラスに設置することができた。	B	・10月の朝読書重点週間で行ったアンケートでは94.8%だった。原因を探り、朝読書の時間が有意義かつ学校生活を落ち着いてスタートさせるための時間となるよう担任と連携し、指導を徹底していく。 ・HR文庫の設置、図書館だより、掲示などにより、生徒が読書活動を推進しやすい環境を整える。
		・「進路探究」「産業社会と人間」「地域探究」「茶文化探究」「課題研究」に取り組み、「探究力」と「発信力」を身に付ける。	・探究の授業を通じて、生徒に「探究力」「発信力」身につけさせたと93.9%の教員が回答。 ・1年次は探究サイクルの学びを重視して取り組めた。 地元企業の方を招聘し、講話を行ったことでより具体的に想像でき、また実践的な活動を耳にすることで地域の課題や解決策をミス出す術を身に付けた。 ・2年次において、探究	A	・全ての年次での探究の授業において、95%以上の生徒がそれぞれの取り組みを理解でき、探究力を向上させた。 ・肯定的でない4.2%は何に満足できなかったのか調査が必要である。 保護者は実際に参加したわけではないが、家庭での生徒との会話からの情報で肯定的な意見であったと考える。 4.2%は家庭内でコ

			したい問いの発見を重視して取り組んだ。 ・茶文化探究・課題研究において探究課題の設定、探究活動の充実プレゼンによる共有までの過程を実施できた。		コミュニケーションがとれていないということか。 ・ICT 機器を用いたレポート作成や配信を行った。 地域の課題に対して、インタビュー等の現地調査を行うなど、意欲的に取り組む生徒が見られた。 ・アンケートにおいて 96.5%の生徒が成果を伝え、活動実践できたと回答。3 年間を通じた一貫指導の継続。
エ	体系的なキャリア教育と進路指導の充実	・キャリア教育、進路学習、インターンシップ等を、関係市、企業等と連携して実施することにより、系列・科目と進路の選択を支援し、3 年間を見通した「設計力」「継続力」を育成する。	・「産業社会と人間」「進路探究」を通して「設計力」「継続力」を身に付けた生 95.8% ・第一志望の合格率は、100/114=87.7%(12/18 現在)生徒 89.6%、保護者 88.6%が肯定。 ・「産社」「進路探究」を通じて「設計力」「継続力」を身につけることができた。生徒 95.8%保護者 88.9% 教員 93.9% ・希望者（24 名）のインターンシップを実施した。満足度は 100%で、事後アンケートでは肯定的な意見が多く、進路に対しての意識の向上が見られた。 ・就職者は、月 7 を用いた系統的・継続的な就職関係指導を行えた。進学者は、小論文指導や志望理由書・小論文指導を教科担当・年次職員で精力的に行えた。	A	・1 年次での探究活動が 2、3 年次の系列選択や探究活動につながっている。 ・生徒の希望に応じて総合型、推薦型など多様な入試スタイルに対応し、また、事前指導を充実させられた。 ・肯定的でない 4.2%は何に満足できなかったのか調査が必要である。例年保護者の評価がもう少し高い気がする。 ・満足度は 100%で、事後アンケートでは肯定的な意見が多く、進路に対しての意識の向上が見られた。 ・来年度、月 7 の時間がなくなるが、就職者への特別な指導を継続したい。
		・企業訪問による情報収集及び、企業説明会の実施により、生徒への正確な情報提供と実効性のある就職支援を行う。	・生徒 98.1%、保護者 87.5%が肯定。 ・保護者による就職模擬面接指導を行うこと		・丁寧な就職指導ができた。様々な理由で進路変更となり就職希望となった生徒に

様式第3号

			ができた。 ・就職希望者は一次募集で全員合格することができた。生徒 97.4% が肯定。 ・企業訪問を行い、積極的な情報交換の結果、指定校求人等の充実を図れた。求人票公開、会社見学、受験先決定等、すべての指導過程で手厚く丁寧な指導を行った。		対応するのは難しい。 ・年度当初に PTA の進路委員をお願いすることは大変であるが、手伝ってくださった保護者の方からは大変好評であった。 ・夏休み直後は生徒の準備状況に不安があったが、担当する先生方の指導のおかげで一次募集での内定が 100% であった。 ・第 1 期就職試験における第一希望合格率は 100% であった。実効性のある就職支援の継続。
		・大学進学希望者の主体性を促し、1 年次から系統的な指導を行う。進学に関する検討会や会議を、各年次において計画的に実施する。	・各年次で検討会を実施することができた。教員 93.9% が肯定。 ・進学検討会や年次会議において生徒個々の検討を継続的に実践できた。 ・第一志望の合格率は、$100/114=87.7\%$ (12/18 現在) 生徒 89.6%、保護者 88.6% が肯定。 ・検討会や会議において必要な情報を関係職員が共有し、進学指導に活用できた。 ・年間を通じた計画的なプログラムのもと目的のある活動を行えた。	A	・先生方の協力をいただいて意味のある検討会を行うことができた。より狙いをはっきりとさせた検討会にさせてい ・多様化する入試方法の選択と準備について生徒・教員を含めた研究を進め、生徒のベストな進路実現に企てたい。 ・生徒の希望に応じて総合型、推薦型など多様な入試スタイルに対応し、また、事前指導を充実させられた。 ・情報共有を行うことで、担任の負担を軽減できた。 ・各種行事に積極的に取り組んだとの生徒回答が 99.4%。
オ	特別活動 課外活動 地域との連携活動の活性化と情報	・学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動は、目的意識を明確にした取組になるよう工夫する。	・文化祭や体育大会、ホームルーム活動等を主体的に取り組んだ生徒アンケートの肯定回答は 99.4%。	A	・行事への取り組み姿勢も積極的であり、継続した生徒会指導、委員会指導、クラス経営に努めてい

様式第3号

	発信		・行事ごとに学級や年次で事前指導や事後指導を行い、より効果の高いものになるよう工夫した。生徒満足度 99.4%		きたい。 ・その行事のねらいを明確にし、目的をもって行事に取り組めるよう事前指導を行った。行事の要項が遅かったり、目的や内容が示されていないかったりするものは適切な事前指導ができなかった。
		・部活動を通して向上心と社会性を育み、部活動の活性化を図る。菊川市、地域の教育機関、諸団体との連携・交流を、組織的に、継続的に推進する。	・部活動を通して、「協働力」「受容力」を向上させることができたアンケート肯定回答 94.9% ・部活動の結果の共有や、中心学年であることの意識づけを行った。 ・文化祭における、こども園、小学校との交流を計画・実施した。 ・菊川市、地域の教育機関、諸団体との連携・交流を組織的に継続的に推進できたと 91.8%の教員が回答。	A	・部活動では、結果だけではなく、過程を重視し、生徒の成長につながる指導を推奨していきたい。 ・中心学年であることの意識が芽生えた。 ・文化祭の地域交流は好評であったため、継続していきたい。 ・課題研究や産業社会と人間などの授業で、外部講師を招いたり、外部団体と交流するなど、各担当で工夫した授業に取り組んだ。
		・コミュニティ・スクールを通して・ホームページや年次通信により地域、保護者に情報を提供する。地域や保護者等との協働を図り、信頼される学校づくりを推進する。	・地域、保護者との連携は図れたが、学校運営協議員との調整が上手く図れなかった。	B	・年間行事等の見直しを図り、役割分担を明確化する。
		・ホームページや年次通信により地域、保護者に情報を提供する。	・学校ホームページ/インスタグラム記事のアップロード数月平均 20 本以上	A	・多くの職員に発信してもらうマニュアルの整備。
		・一日体験入学の行事等を通じて、中学生に本校の魅力を伝える。	・一日体験入学、オープンスクールの参加者の満足度 85%以上	A	・資料・地図・案内などさらなる改善に取り組む。
カ	教育環境の整備と事務業務の効率	・ICT、図書、教具等が効果的に活用できる教育環境を整備する。	・ICTなどの環境整備ができた 89.8% ・教科からの要望を定期	A	・生徒の1人1台PCの導入にあたり、各教員がそれを活かした

様式第 3 号

	化		的に集約し、図書資料の充実を図った。 ・ I C T、図書、教具等が効果的に活用できる教育環境が整備されたと実感する教諭が 89.8%となった。		学校活動や授業への工夫に取り組むことができた。 ・ 職員から要望があった図書資料はすべて購入することができた。更に円滑な整備に努める。 ・ 授業支援システムの導入を中心に教育環境の整備に尽力した。今後は、I C Tの使用を促していく。
		・ 適正な学校経営予算の編成と執行、施設・設備の効果的な管理と運用、教育備品の充実に努める。	・ 予算減少、物価高騰により教育備品等の整備が難しい。施設設備については、危険回避の観点から修繕を行った。	B	・ 経営予算は、経常的支出で消化され厳しい状況である。施設・設備も老朽化しており、限られた予算で学校運営に支障のない予算執行に努める。
キ	職員の勤務状況善の推進	・ 各分掌、委員会、年次、教科等の年間を見通した業務の精選と効率化を図るとともに、職員の資質向上に努める。	・ 業務を精選・整理した分掌等 85.7% ・ 校内研修会のアンケート結果より、職員満足度は、第 1 回(小論文指導)が 95.8%、第 2 回(多様性を理解する)が 90.5%であり、充実した研修会を行うことができた。 ・ ICT 機器を用いて朝の打ち合わせの時短や、検討事項の共有を行った。 ・ 前年踏襲に追われ、効率化の意識が弱かった。	B	・ 次年度の科目選択指導に向けて、担任業務の効率化に向けた準備を進めた。 ・ 校内研修会のアンケート結果や教職員の意見を参考にしながら、来年度も職員満足度が 90%を達成できるよう職員の要望を聞きながら企画していく。 ・ 打ち合わせの時短は引き続き継続していきたい。
		・ 勤務時間管理を適正に行い、各職員が設定した定時退勤日を設ける。	・ 各自で設定した定時退勤日を概ね実践している職員 51%。 ・ 各自で設定した定時退勤日をあまり実践できていない。	B	・ 業務過多になる期間はどうしても長時間勤務となってしまうのが現実です。 ・ ○○という業務をしてはいけないという命令がなければ達成しない。